

### 3. 流域の社会状況

せたな町は、平成17年9月1日、大成町、瀬棚町、北檜山町の3町の合併により誕生。

本章では、流域の状況をより詳しく説明するため、旧自治体区分で記述する。

#### 3-1. 人口

流域の人口は、旧瀬棚町 2,699 人、旧北檜山町 5,884 人、今金町 6,600 人であり、合計 15,183 人（平成17年住民基本台帳）である。

表3-1 流域内人口（住民基本台帳人口・世帯数 平成17年3月31日現在）

区分	流域自治体	旧瀬棚町	旧北檜山町	今金町
面積(k㎡)	1,072.8	125.7	379.0	568.1
総人口(人)	15,183	2,699	5,884	6,600
世帯数(世帯)	6,208	1,145	2,412	2,651
人口密度(人/k㎡)	14.2	21.5	15.5	11.6

（出典：人口、世帯数 住民基本台帳人口・世帯数 平成17年3月31日現在  
面積 北海道企画推進部市町村課「地目別地積一覧」(平成15年)）

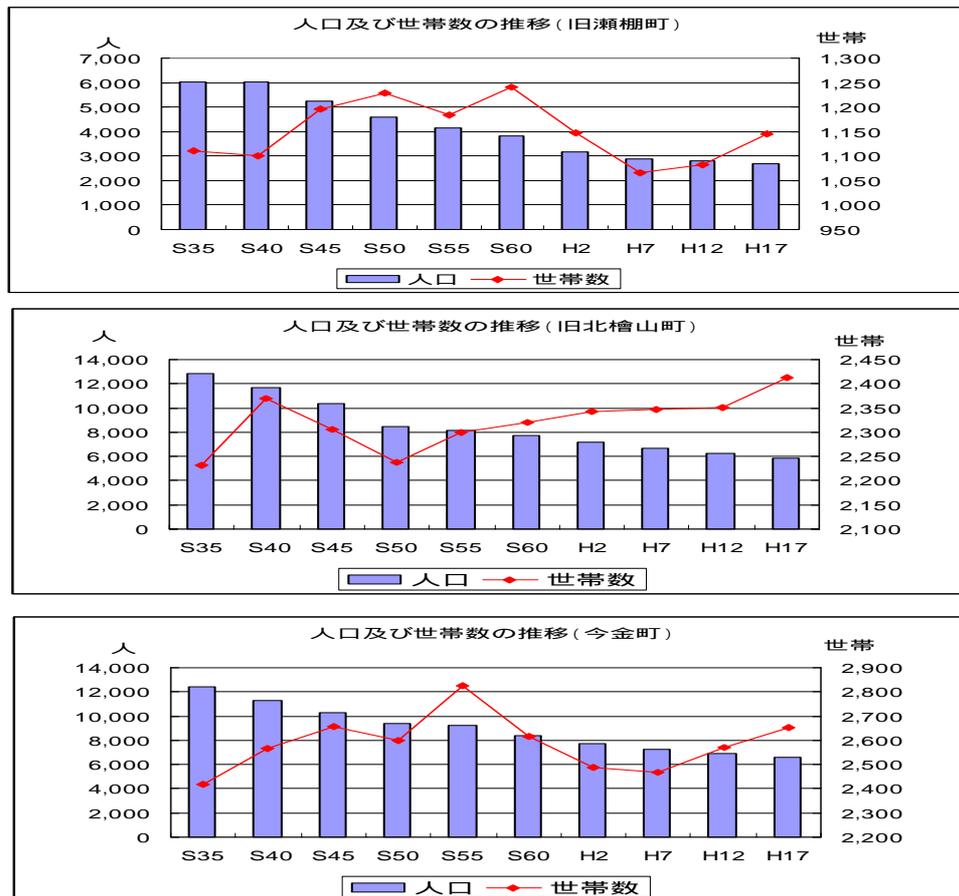


図3-1 人口及び世帯数の推移

（出典：昭和35年～平成12年/国勢調査、平成17年住民基本台帳）

### 3-2. 土地利用

流域自治体の面積は合計で 1,072.8km<sup>2</sup>（平成 15 年）である。山林（790.3 km<sup>2</sup>）が全体の 73.7%を占める。田（53.1 km<sup>2</sup>）は 5.0%、畑（64.5km<sup>2</sup>）は 6.0%であり、宅地（5.7km<sup>2</sup>）はわずかに 0.5%である。

この地域は、狩場山地など 1,000m級の峰へ続く山並みが入り組み、その間を後志利別川などの河川が流れている。河川の両側の低地には田が広がり、その外側の高台には畑、さらに山側に牧場が点在している。沿川地域は、明治以来肥沃な農耕地となっている。



農耕地の広がる利別目名川合流部付近

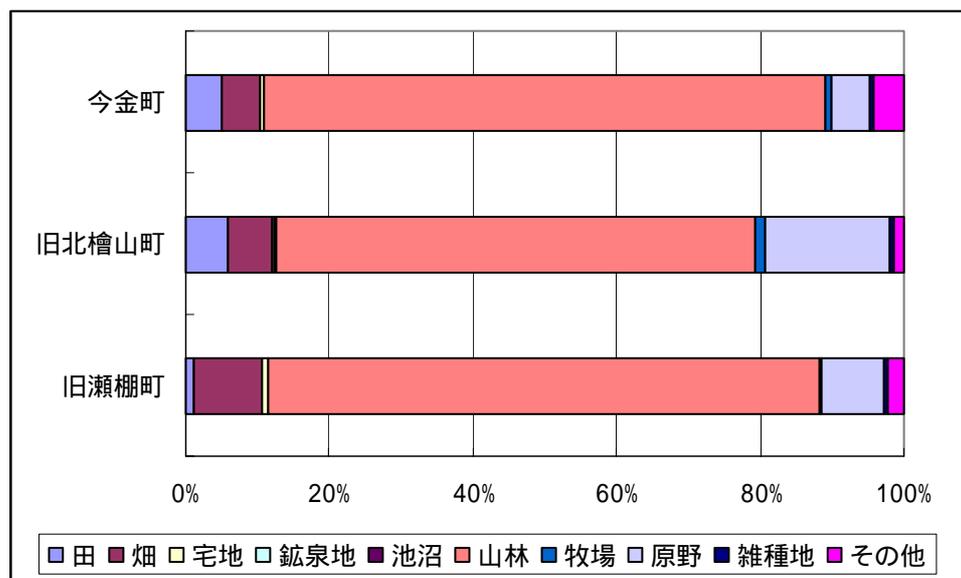


図 3-2 旧瀬棚町・旧北檜山町・今金町の土地利用状況

（出典：北海道市町村勢要覧(H15)）

### 3-3. 産業・経済

流域の産業構造(平成12年)を見ると、第1次産業2,284人(27.5%)、第2次産業1,800人(21.6%)、第3次産業4,236人(50.9%)である。農業・漁業を中心とした第1次産業の占める割合が比較的高いことが特徴であり、特に、水田・畑作地帯が広がる旧北檜山町・今金町ではその傾向が強い。産業構造の推移を見ると、平成2年に比べ第1次産業が7.7ポイント減少し、一方で第3次産業が7.7ポイント増加している。

本地域は、農業を基幹産業としており、後志利別川に沿って広がる肥沃な大地と温暖な気候により、道南一の穀倉地帯を形成している。また、丘陵地帯では、酪農や畜産の取り組みも盛んである。主な農作物としては、優良業の産地として「Aランク指定」を受けている米をはじめ、じゃがいもやネギなどの付加価値の高い作物が出荷されている。流域の農業粗生産額(平成14年)を見ると、合計で78.5億円であり、その内訳は旧瀬棚町7.8億円、旧北檜山町27.3億円、今金町43.4億円である。昭和60年からの推移を見ると、旧瀬棚町及び今金町は平成7年をピークに以降減少傾向を示している。旧北檜山町は昭和60年以降減少傾向が著しい。

流域の所有形態別森林面積(H15現況面積)は全体で84,024haであり、その6割以上が国有林となっている。森林面積の推移には、大きな変化がない。

旧瀬棚町・旧北檜山町の漁業生産高(平成15年)は、8.4億円である。主要魚種としては、スルメイカ、サケ、ウニなどである。近年では、「漁る漁業」から「守り育てる漁業」へ転換しており、旧瀬棚町ではヒラメ、クロガシラ、ウニ、アワビ等の増殖事業が、旧北檜山町ではウニ、アワビ、カキ、ホタテの養殖と、サケ・マスの放流事業が進められている。

流域の製造品出荷額(平成15年)は36.3億円となっており、平成2年に比べると、旧瀬棚町57%減少、旧北檜山町54%減少となっている。一方、今金町は11.7%の増加を見せている。主な業種としては、窯業・土石製品製造業、食料品製造業が挙げられる。

また、消費ニーズに応えるため、水産加工品や地場の酪農業・農業を活かした特産品の開発・販売により商業活動の活性化を図っている。

表 3-2 旧瀬棚町、旧北檜山町、今金町における産業別就業者数

	旧瀬棚町		旧北檜山町		今金町	
	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)
第1次産業就業者数	250	17.6%	888	27.1%	1,146	31.6%
第2次産業就業者数	460	32.4%	706	21.6%	634	17.5%
第3次産業就業者数	711	50.0%	1,677	51.3%	1,848	50.9%
計	1,421	100.0%	3,271	100.0%	3,628	100.0%

(出典：北海道市町村勢要覧(H15))

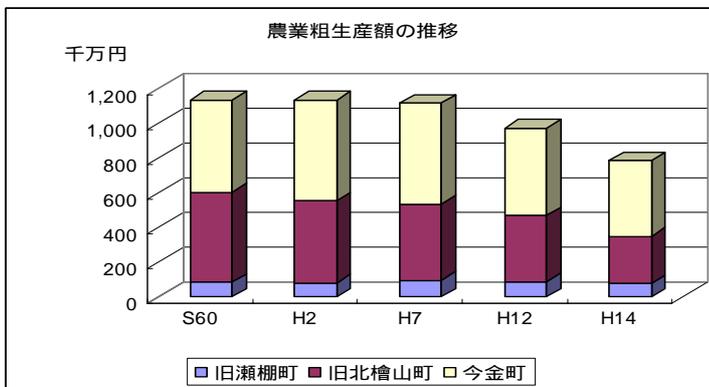


図 3-3 農業粗生産額の推移

(出典：生産農業所得統計)

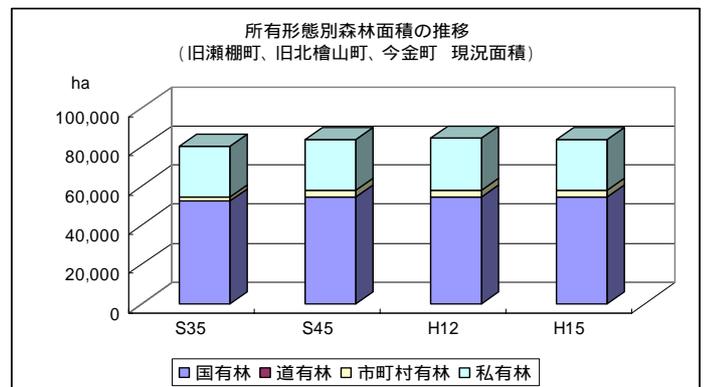


図 3-4 所有形態別森林面積の推移

(旧瀬棚町、旧北檜山町、今金町)

(出典：北海道林業統計調査、檜山の民有林)

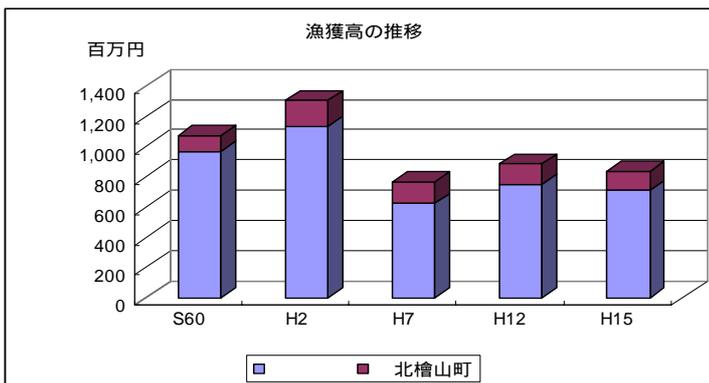


図 3-5 漁獲高の推移

(出典：北海道水産現勢(H17.1 水産林務部))

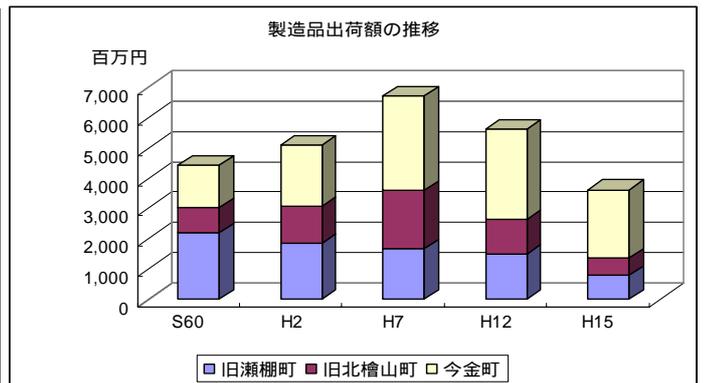


図 3-6 製造品出荷額の推移

(出典：工業統計表(H17.5 刊行時まで))

(参考)

■ 農業粗生産額の推移

(千万円)	S60	H2	H7	H12	H14
旧瀬棚町	84	80	94	90	78
旧北檜山町	518	475	442	378	273
今金町	531	578	579	503	434
合計	1,133	1,133	1,115	971	785

(出典：生産農業所得統計)

■ 所有形態別森林面積の推移 (旧瀬棚町、旧北檜山町、今金町 現況面積)

ha	S35	S45	H12	H15
国有林	52,142	54,407	54,526	54,526
道有林	0	0	0	0
市町村有林	2,162	3,141	3,141	3,136
私有林	26,259	26,414	26,559	26,362
合計	80,563	83,962	84,226	84,024

(出典：北海道林業統計調査、檜山の民有林)

■ 漁獲高の推移

(百万円)	S60	H2	H7	H12	H15
旧瀬棚町	972	1,136	628	752	711
旧北檜山町	103	174	141	135	129
合計	1,075	1,310	769	887	840

(出典：北海道水産現勢 (H17.1 水産林務部) 漁業センサス)

■ 製造品出荷額の推移

(百万円)	S60	H2	H7	H12	H15
旧瀬棚町	2,217	1,848	1,678	1,500	793
旧北檜山町	815	1,243	1,939	1,146	578
今金町	1,410	2,024	3,113	2,990	2,260
合計	4,442	5,115	6,730	5,636	3,631

(出典：工業統計表 (H17.5 刊行時))



### 3-5. 関係ある法令の指定状況

#### ① 第6期北海道総合開発計画

北海道総合開発計画は、行政改革や国際化、地球環境問題への知見の集積などの大きな情勢の変化を受け、地球規模に視点を置いた食料基地、北の国際交流圏の形成、観光・保養基地の形成や北海道が有する美しく雄大な自然環境の保全、安全でゆとりのある生活環境の創造を目的としている。

これらの目的を重点的・効率的に推進してゆくための一方針として広域的・複合的な地域プロジェクトの推進を掲げており、複数の市町村が連携を図り、総合的に取り組むプロジェクトを支援してゆくものとしている。この地域プロジェクトの中には、河川事業に直接あるいは間接的に関連するものも少なくない。



図3-8 第6期北海道総合開発計画

(出典：北海道局HP)

## ② 都市計画

旧瀬棚町市街は、国道229号に沿って発展しており、瀬棚港を中心に広がっている。後志利別川からは、直線距離にして約3kmほど離れているが、町の北側には馬場川が流れている。また、旧瀬棚町では都市計画区域の指定はない。

旧北檜山町は大きく北檜山市街、北檜山集落、丹羽、若松、太櫓の5地区に分けられている。そのうち、都市計画区域に指定されているのは、国道230号沿いに発達している北檜山市街である。用途地域を見ると、国道沿いが商業及び近隣商業地域であり、その外縁部を準工業地域と住居系土地利用が取り囲む形となっている。後志利別川に隣接しているエリアは、大部分が第一種中高層住居専用地域である。また、都市施設としては、都市計画道路の9路線が都市計画決定されている。

今金町市街地は、国道230号を中心に都市計画区域に指定されており、その中核を商業地域、それを取り巻く形で住居系土地利用が配置されている。また、後志利別川沿川はすべて第一種中高層住居専用地域となっている。都市施設としては、都市計画道路が8路線、公園・緑地が4ヶ所、都市計画決定されており、後志利別川河川敷も都市計画緑地の1つとなっている。また、今金町では、開発行為が2ヶ所行われており、いずれも用途は住宅となっている。